

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、その改善を図る。
- ・可児市教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、その改善を図る。
*本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

(2) 対象学校・児童生徒

- ① 可児市内全公立学校 【11小学校（6年生） 5中学校（3年生）】

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数/数学）② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

(4) 調査日 令和3年5月27日（木）

2 可児市における調査結果の概要

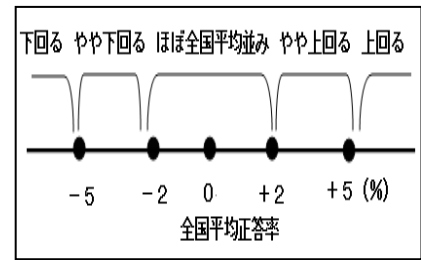
(1) 教科に関する調査結果の分析の概要

- 全体的には、小学校は、全国平均をやや下回りました。

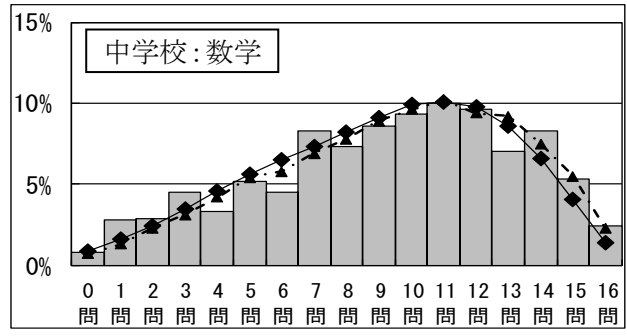
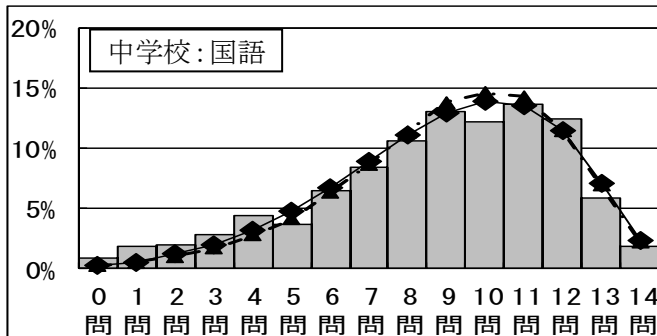
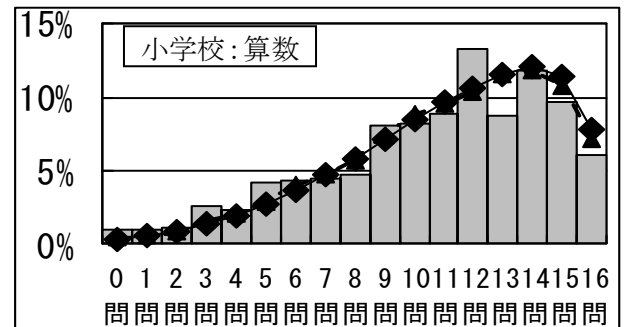
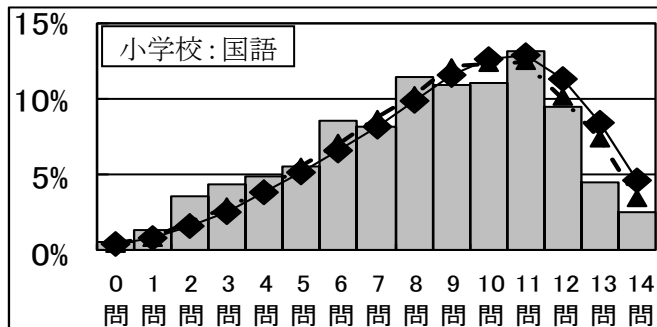
- ・小学校国語では、全国平均をやや下回った。
- ・小学校算数では、全国平均をやや下回った。

- 全体的には、中学校は、ほぼ全国平均並みでした。

- ・中学校国語では、全国平均をやや下回った。
- ・中学校数学では、全国平均並みでした。



- 正答数の分布 可児市 岐阜県 全国 横軸：正答数 縦軸：割合



- ・小学校国語は、正答数が少ない児童の割合が高い。また、正答数の多い児童の割合は低い。
- ・小学校算数、中学校国語は、正答数の多い児童生徒の割合は低い。
- ・中学校数学は、全体的に正答数の割合は、全国・岐阜県と同じである。

○ 課題となる特徴的な設問

（「」内は、設問の概要や出題の趣旨 （ ）内は、学習指導要領の内容・領域：評価の観点）

[小国] 「文の中における主語と述語との関係を捉える」（言語の特徴や使い方に関する事項：知・理）

[小国] 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」（ ）

[小算] 「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる」（数と計算：思考・判断・表現）

[小算] 「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」（変化と関係：知識・技能）

[中国] 「話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する」（話すこと・聞くこと：話す・聞く能力）

[中国] 「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」（読むこと：国語への関心・意欲・態度、読む能力）

[中数] 「整式の加法と減法の計算ができる」（数と式：数学的な技能）

＜課題解決への手立て＞

□ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得

小学校国語では、全国平均を下回った結果となりました。特に、言葉の特徴や使い方に関する知識及び技能の習得に弱さがみられました。辞書や資料などを使ってより語句の理解を図ったり、日常的に日記や作文を書く機会を多くしたりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をさらに図ります。同時に家庭の協力を得ながら、漢字ドリルおよびタブレットを活用しながら指導していきます。

□ 主体的・対話的で深い学びのある授業の充実

小学校算数・中学校国語では、全国平均をやや下回る結果となりました。また全国平均と比べ記述式の問題に対して無回答率が高い結果となりました。文章やグラフ等から目的をもって必要な情報を読み取り、判断し、自分の意見を持つ力に課題がみられます。仲間と関わりながら、図鑑や本、新聞やタブレット等を使って調べ、考察し、いくつかの情報を関連付け根拠を明確にして記述したり、明したりする活動を行うことで、問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をさらに伸ばすような授業改善を図ります。

(2) 児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は、ほとんど全国平均並みでした。その中で、全国平均と比べて、「回答1」当てはまる「回答2」どちらかといえば当てはまる」が、全国平均より特に高かった(低かった)項目及び全国比が一昨年よりも特に伸びた(下がった)項目について、以下に示します。 数値：1+2 の割合(全国比)[全国比の R1 比]

質問内容	小学校	中学校
【自己について】		
自分には、よいところがあると思いますか	78.4(+1.5)[+1.3]	82.0(+5.8)[+2.5]
将来の夢や目標を持っていますか	78.2(-2.1)[+1.2]	71.9(+3.8)[+3.8]
【学校生活・学習について】		
5年生(1,2年生)で受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	57.4(-6.1)[-5.1]	68.5(+6.5)[+5.1]
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	76.6(+3.2)[-1.0]	88.5(+14.6)[+6.5]
国語の勉強は好きですか	47.2(-11.2)[-4.0]	55.4(-5.4)[-9.7]
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	55.7(-8.1)[-5.5]	72.6(+11.3)[+10.4]
算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか	78.1(-6.5)[-6.7]	77.2(+2.6)[+3.6]
【家庭生活について】		
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	66.6(+3.5)	51.0(+2.6)
【地域とのかかわりについて】		
今住んでいる地域の行事に参加していますか	67.3(+9.2)[-3.9]	62.4(+18.7)[-2.6]

一昨年同様にほとんどの児童生徒は、「自分にはよいところがある」と認識しており、「将来の夢や目標をもっている」児童生徒とともに、一昨年よりもポイントが高い結果となりました。コロナ禍でも地域の行事に進んで参加できる児童生徒が多く、また規則正しい生活を送っていた児童生徒の割合も全国より高く、家庭、地域が一体となって個に寄り添う支援がなされていると考えられます。

学校生活では、仲間と関わり合いながら自分たちの生活をよりよくしていこうとする主体的な姿がみられます。特に中学校では、学習面で自分の考えを工夫して積極的に発表したり、分からないことは質問したりすることができ、それが学力にも繋がっていると考えられます。また、コロナ感染予防のため小学校では協働的な学びが難しく、学習の楽しさが感じにくかったのではないかと分析しています。これから小中ともに仲間と関わり合いながら、自分の考えを基に話し合う活動を大切にしていきたいと思います。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ・本調査において、正答率が低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- ・各小中学校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びが授業の中で行われる協働的な学習をさらに充実させます。また、わかる喜びや学ぶ楽しさを実感できるよう評価を工夫し、個々の学習状況や定着状況を見届けるなど、きめ細かな指導の充実に取り組んでいきます。